

学校教育目標	～チャレンジする子 港北の子～							
	知	【粘り強く学び続ける】興味や関心を広げ、課題を発見し解決に向けて積極的に学び続ける力を育てます。						
	徳	【自他を大切に】自分を大切にし、生きる力、主体的に判断し相手を思いやる優しさを育てます。						
	体	【心身ともにたくましく】自他の命と体を大切にし、生涯に渡ってスポーツに親しむ態度を育てます。						
	公	【他者と協働】夢や目標をもち、社会の役に立つために他者と協働する力を育てます。						
開	【多様性を尊重】コミュニケーションを通し、社会へ視野を広げ新たな価値を創造する態度を育てます。							
学校概要	創立 71 周年	学校長	大嶋 照美	副校長	土井 茂	2 学期制	一般学級: 25	個別支援学級: 3
	児童生徒数: 817 人	主な関係校: 篠原中学校 神奈川中学校 錦台中学校 篠原小学校 篠原西小学校						

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<協働して課題解決に向かう力> <コミュニケーション能力> <学び続ける力> <新たな価値を創造する力>	篠原中学校 篠原小学校 篠原西小学校	○自己肯定感をもち、未知のことへ主体的にかかわる子ども ○他者への感謝の気持ちが育ち、自らも社会貢献する子ども 国語科の授業を中心に、地域に開かれた教育課程の作成を行う。「わかる・できる」子どもの姿、「つまずき」ととらえる教師の目、「夢中で取り組む」子どもの姿を視点として授業を展開する。さらに「自ら問いをもち、その解決に向け生き生きとやり取りしながら学び合う姿」についての取り組みの評価をうける。小中児童生徒交流日には、6年生が中学校の授業参観をしたり、部活動見学をしたりして、滑らかな接続ができるようにする。

中期取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・協働的な学習を通して、楽しさを実感できる授業作りを推進し、表現を大切に学力向上を目指す。 ・自己有用感をもち、思いやりの心と温かい言葉を大切に「ひと・もの・こと」の関わり楽しく学校生活を送れる。 ・健康な心身をつくるための、生活習慣が形成できるようにする。 ・多様性を認められ、できる喜びを感じながら、楽しく学校生活を送れるようにする。 ・スタンダードを基に、個に応じた指導、安心して学校生活を送れるようにする。 ・保護者・地域の方との関わり、まちの「人」とのつながりを意識し、体験を通してまちを愛する心を育てる。
---------------	---

重点取組分野	具体的取組
生きて働く知	①授業で身に付けたい力に適した言語活動(説明、報告、記録、対話、討論など)を位置付け、主体的な問題解決的な学習の中で、自分の考えを表現、交流し、力を付けることのできる授業を行う。②ICTを活用し、考えを表現したり、発表したりする授業を発達段階に応じて意図的、計画的に行う。
担当 推進委員会	
豊かな心	①上学年は下学年を思いやり、下学年は上学年に憧れをもつことができるように、ペア学年活動を充実させる。②学年に応じた挨拶の取り組み。③よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために、各教科等における道徳教育と道徳科との関連を図りながら計画的に指導する。
担当 人権福祉部	
健やかな体	①手洗いうがい早寝早起き朝ごはんの励行。②食についての理解を深め、自らを見直していけるように、給食目標の共通理解を行う。具体的に学級活動で取り組む。③外遊び推進を活性化させ、進んで運動に取り組めるようにする。
担当 保健・食育・体育	
特別支援教育	①授業の「見通しボード」、可動式の「時間割ボード」を活用し、ユニバーサルデザインを基本に教室環境を整える。②支援を要する児童の特性から具体的な支援につなげるアセスメントシートの作成、実現可能な個別の指導計画の実践・評価を行う。③個別支援学級と一般学級との連携を深める。
担当 特別支援コーディネーター	
児童指導	①スタンダードを基に職員が一体となり、ユニバーサルデザインの視点を意識し一貫した指導を行う。②生活目標を活用し児童が目指す姿を具体的に示し学校生活を送るようにする。③職員会議で児童理解の内容を定例化し、配慮を要する児童について共通認識を持ち対応できるようにする。
担当 児童支援	
地域連携	①「まちの先生」として授業に参加していただくなど地域人材の安定的活用を図り、計画的に教育活動を進めるとともに、地域コーディネーターと連携し、活動内容を工夫して実践する。②HPの内容を定期的に見直し、学校の様子が伝わるように発信の工夫をし、教育活動理解の手立てとする。
担当 地域連携	
自分づくり教育	①横浜の時間等を中心に、地域で体験的に学ぶ機会を学年ごとに計画的に設ける。②学ぶことや働くことについての意義を知り、児童が考えられる場を年間を通して、今年度から取り組んでいく。③中学校ブロックとも連携しながら、キャリアパスポートを活用していく。
担当 特活・学年主任	
幼保小中連携	①幼保小連携事業の推進地区として近隣の幼稚園、保育園との連携を密にする。 ②スタートカリキュラムの理解 ③幼稚園、保育園、中学校との連携の充実を図る。
担当 他校種交流	
いじめへの対応	①学年担任の繋がりを密にし、学年指導体制と加味しながら、チームで指導・支援していく。②職員会議や三部会の会議を通して、職員が情報交換・共有を密に行い、組織的に指導を行う。③お互いの違いや良さを認め合える関係づくりを全授業、特に道徳の授業を中心に行う。
担当 人権福祉・児童支援	
人材育成・組織運営(働き方改革)	①計画的にメンターチーム研修をモデルリーダー中心に行う。②授業研究会をテーマに即して行い、実践を積み重ねる授業力、指導力を高める。③教務会や学年主任会を行い、共通理解のもと学校運営に携わるようにする。④情報共有システムの導入を考慮し、情報の共有化・会議時間の短縮化を優先していく。⑤学年副主任制度を導入し、学年主任の仕事学び、仕事分担等を行い、会議の短縮化と人材育成を行う。
担当 教務・メンター	